



日章学園九州国際高等学校校長便り水無月
建学の精神：道義に徹し、実利を図り、勤労を愛す
学園スローガン：二倍の努力
学校教育目標：国際的視野と人間性豊かな心を持ち、
自ら学び考え、自己の課題を解決できる生徒を育成する。
令和7年(2025年)6月2日(月)校長 屋田伸仁



和顔愛語



4月に入学、進級して、2ヶ月が経ち、生徒達の顔を見ると、緊張感から開放感を感じている生徒もいれば、まだまだ表情が固い生徒もいます。そんな中、いつも笑顔を絶やさない生徒がいたので、声をかけてみました。「学校が楽しい。ハッピーです。」と目をキラキラさせながら、応えてくれました。その生徒の放つ明るい

波動が伝わってきて、こちらまでハッピーな気分になりました。集団生活をしていると、だれでも勉強、友達関係、進路、体の調子等で多少の悩みは付き物です。悩みや不安を抱えていても、人と接するときには、素敵な笑顔ができる人には感心し、尊敬したりもします。仏教用語に「和顔愛語（わげんあいご）」という言葉あります。「和やかな笑顔と優しい言葉で人に接すること」を意味しており、和顔が笑顔、愛語が優しい言葉だそうです。「笑顔で人と接すると、あなたは周りの人を和やかな気持ちにさせることができますよ。優しい言葉をかけると、あなたと接する人を温かい気持ちにさせることができますよ。」とお釈迦様がおっしゃったそうだ。本校では、生徒会が正門の前に立って、毎朝、朝のあいさつ運動をしています。お互いに明るい笑顔で「おはようございます。」と言葉を交わして、みんなで気持ちのよい学校生活のスタートを切りたいものです。学園スローガンは「二倍の努力」です。私自身も「和顔愛語」を「二倍の努力」の一つに加えて、精進し続けたいと思います。



(馬を水辺に連れていくことはできても、水を飲ませることはできない。)

先日、ショッキングなニュースがありました。東大前駅の構内で、男が大学生を背後から切りつけるという、痛ましい事件でした。犯人は、動機として、「親が子どもに東大を目指して勉強を押し付けると、こんな犯罪者を生み出すということを世の教育ママに訴えたかったから。」という話をしていました。教育的虐待を受けたら、犯罪を犯してもよいというのは、身勝手な考え方で、世間では絶対に受け入れられるものではありませんが、犯人がおそらく小中学生や高校生の頃に親から厳しく叱責されながら、勉学を強いられ、苦痛を味わい続けた姿は、容易に想像できます。

上記の「You can ~」のことわざは、本人にその気がない場合は、周りの人がいくらがんばってみても、どうにもならないという意味です。このことわざと反対の意味を持つことわざもあります。



「匹夫も志を奪うべからず」

意味は、「身分の低いつまらない男でも、その志がしっかりしていれば誰もそれを止めることはできない。」です。家庭環境が貧しくても、自らの目標を持って勉学意欲に燃える若者は、親の助けはなくとも、自らの努力によって我が道を進み、成功者になることができるのだと思います。本校には中学校時代に人間関係に躊躇したり、大人数が苦手だったりして、不登校や引きこもりを経験した生徒もいます。彼らの中には、英語の準1級を取得して、英語教師の道に進んだり、保護犬ニッチャーの触れ合い活動でアニマル関係の専門学校に進学したりした生徒もいました。本校の職員はトコトン面倒をみます。生徒の皆さん、先生たちと一緒に、自分らしい生き方を見つけて一緒にがんばりましょう。

